

「夢追い人通信」 第 23 号 広島・宮島への旅、福島への旅（2016 年 3 月、4 月）

今号は、春がきたなら の桜の頃。今シーズンは、花の見頃が例年より早まっている、これも地球温暖化の影響か、満開時を見逃してしまうことが多々ありました。

そんななか、3月下旬の妻と一緒にフリープラン広島・宮島2泊3日の旅と4月中旬『元気に百歳クラブ』の福島1泊2日の旅を楽しみました。

第23号の内容は次のとおりです。

1. 広島・宮島への旅 平和記念公園(原爆ドーム、平和記念資料館、宮島(厳島神社、弥山(みせん))
広島城、縮景園
2. 福島への旅 花見山 磐梯吾妻スカイライン(浄土平経由)



1 広島・宮島への旅

第1日目【3月27(日) 東京駅⇒広島駅⇒平和記念公園⇒グランドプリンスホテル広島】☀️ 7,503 歩

東京駅を10:30発ののぞみ 25 号で一路広島に向かう。途中、車窓に富士山が見えて気分がいい。移り変わる景色をぼんやり見たり、ガイドブックに目を通し、長い鉄道の旅で14:31広島駅着。

キャリーバッグを預けて、広島見物に乗り出す。市内をまわる紅葉色の「めいぷる〜ぷ」循環バスに乗り、先ず「平和記念公園」を目指す。



広島は仕事で訪れたことはあるが、恥ずかしながら「原爆ドーム」も「平和記念資料館」も初めての訪問。この時にはG7外相サミットが広島で開催されることは知らなかった。まして、伊勢志摩サミット後にオバマ大統領が広島を訪問することなど知る由もない。

原爆ドーム前でバスを降りると雨がぱらつく。被爆者の涙だろうか…。結構西洋人が多いのが印象的だ。

原爆の惨状の象徴ともいえる世界遺産「原爆ドーム」戦後71年経っても重苦しい雰囲気

漂う。そんな中、川のそばには「赤い鳥」鈴木三重吉の歌碑があったり、柔らかな若芽の柳が風にそよいでいたりして、ふと救われた気持ちになる。



外国人客の多い「平和の鐘」、折り鶴を持つ少女のブロンズ像が最頂部にある「原爆の子の像」、「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返しませんから」と刻まれている「原爆死没者慰霊碑」、ここから一直線上に原爆ドームが見える。



丹下健三の設計した「広島平和記念資料館」を訪れる。東館は改修工事中で、本館に入る。ここ

では、キノコ雲の写真、広島市上空の原爆火球、原爆の模型、2歳で被爆し、10年後に白血病を発病。8ヶ月の闘病後に亡くなった佐々木禎子さんが回復を祈って折り続けた鶴も展示してある。大半は遺品や被爆資料だ。人種の異なる様々な国の訪問者が熱心に見て回る。亡くなった方、後遺症に苦しんだ方々をおも





うと胸がふさがる思い。



広島駅で降り、明日の朝食用にアンデルセンのパンを買う。広島は「アンデルセン」の発祥の地。

夕食は、広島流お好み焼き、案内書で調べた店「麗ちゃん」で。屋台みたいで活気がある。なかなかの味。食べ終わった頃、プロ野球が終わって広島ファンがどっと押し寄せる。

混雑をかき分け、新幹線側のホテルのシャトルバスへ。満車でバスが出た後だったが、係員がタクシー利用で代替して代金もあとで返してくれるとのことで一安心。ホテルに向かう途中、運転手が土地情報を熱心に話してくれる。宿泊するホテルは、G7外相サミットの会場になるという。



「グランドプリンスホテル広島」泊

第2日目【3月28(月) ホテル⇒ 宮島・弥山(みせん) ⇒ ホテル】☀ 22,922 歩



朝起きて、ホテルの窓から外を見ると、しめた！ 天気良さそう。食事の後、瀬戸内シーライン1日フリー

パスの手配も済ませ、出港時間までの時間、ホテルの周りの海岸沿いたどって散策。空気が澄んでいて気持ちがいい。途中、登り口があったとすると灯台に出くわす。宇品灯台だ。行き帰り丁度いい足慣らし。



ホテルの前から、宮島行き的高速船が出るのは便利。海の景色を楽しみながら、海から日本三景・世界遺産の島、宮島入り。ここは、栈橋からしばらく歩いて鹿の出迎えを受けながら「厳島神社」に到着。春の観光シーズンとあって海外からの観光客も含め人出が多い。朱色の大鳥居が迎えてくれる。

結婚式の記念写真風景に出くわす。朱色の回廊を進んで、御本社、高舞台、平舞台、大国神社、天神社、



、反橋、能舞台と見どころを周る。

厳島神社を後にして、大願寺。山門や九本松、護摩堂の護摩行を見る。足を伸ばして昨晚タクシーの運転手から勧められた「清盛神社」を訪れる。厳島神社の造営に果たした清盛の功績に比べて少し寂しい。



九本松



大願寺山門



こじんまりとした清盛神社



牡蠣屋の店先

昼食は、少し歩いてネットで調べた「牡蠣屋」で、牡蠣づくしを堪能する。お腹を満たした後は、信仰と奇岩の山「弥山(みせん)」を目指す。途中、和服姿の二人連れがカメラに答えてくれる。



紅葉谷公園を抜けてロープウェイ紅葉谷駅からスタート。途中ロープウェイを乗り継いで終点獅子岩駅に到着。

ここから弥山の頂上まで岩地もあってかなりのアップダウン。途中、赤い椿が眼を休めてくれ、眼下に瀬戸内海





の島々が見える。「弥山本堂」は、弘法大師・空海が 100 日間の修法を行ったと伝えられる。巨岩のトンネル「くぐり岩」を通して険しい山道をたどり、弥山頂上に出る。見晴らし台に上がってしばらく眼下の景色を楽しむ。直下は険しい岩だらけ。結構西洋人が多いのには驚いた。8 人乗りの山頂ロープウェイは行き帰りとも我々の以外は外国人だった。行きはレバノンから来た一家とその東京に妹夫婦だった。



山歩きを終えた後は、「五重塔」と秀吉の死で未完成の「豊国神社(千畳閣)」を外から見学。

帰途に着くと、ちょうど干潮の時間で大鳥居まで歩いていける。側で見ると高さ16m重さ60tの大きさがわかる。栈橋近くに清盛



像がある。帰りの船旅は、航跡に夕日の光が踊っていて美しい。



ホテルに戻って夕食は、西洋料理「ボストン」が団体客で満席なので 20階の「なだ万」。沈む夕日と暮れなずむ景色を見ながら、山海の日本料理に舌鼓をうつ。至福の時だ。



「グランドプリンスホテル広島」泊

第3日目【 3月29(火) ホテル⇒ 広島城・縮景園 ⇒ 広島駅 ⇒東京 】☀️ 11,872 歩



ホテルはロビーも外観もなかなか立派。ここからバスで、広島城近くで下りる。今日は帰りの日、広島城と縮景園を見学するプラン。



「広島城」は、桜が咲き始めている。一段毎に歴史を物語る展示物を見ながら天守閣に到着。360 度の広島のパノラマ。眼下の緑の中にとろろ桜の咲いているのがわかる。遠景に薄



ぼんやり原爆ドームが見える。

帰り道、被爆樹木の「クロガネモチ」を見る。被爆後71年の歳月を生き伸びた生命力に感じ入る。



歩いて「縮景園」へ。広島県立美術館のとなりにある。
昔、広島出身の上司と来たことを思い出す。入口近



くに見事な源平しだれ桃もが咲いている。桜も日当たりの良い所は咲いていた。都会にぽっかり空いたオアシスのよう。





広島駅に戻るのに「市電」を利用することにした。乗り場がわからずうろついていたところ、通りかかった御茶会帰りの和服の女性に乗り場や乗り換えを親切に教えてもらい無事広島駅に到着。

帰りの時間まで、お土産や帰りの駅弁を買う。夕食には皆さんから勧められた名物「あなごめし弁当」売り場をやっと見つけてゲット。13:35 広島駅発のぞみ 30 号で17:33東京駅着。

2 福島への旅

「元気に百歳クラブ」サロン日だまりの企画。東北震災支援の旅 第2弾「福島花見山ツアー」。

福島在住で「花見山」の花案内人である会員の渋川 奨(すすむ)さんのご尽力で実現。写真家秋山庄太郎さんが絶賛した花見山の見事な花々を散策、飯坂温泉に宿泊。2日目は、磐梯吾妻スカイラインを行く行程。

第1日目 【4月 17(日) 東京駅⇒(新幹線) 福島駅⇒(バス) ⇒ 花見山⇒ 旅館】  4,231 歩

東京駅 13 時発やまびこ 139 号自由席に乗車、日曜午後発とあって空いていてまとまって乗れた。途中駅から乗車するメンバーもあって、福島到着時には総勢 16 名。渋川さんが出迎えてくれる。用意されたバスに乗り込んで、東北に落ち延びた源の義経が立ち寄ったと言われる医王寺を目指したが、あいにくの驟雨で断念。宿泊する飯坂温泉・摺上亭大鳥に直行することとなった。



た。ここは温泉街の一番奥の方に位置していて、立地も良く立派な旅館だ。

部屋割りも決まり、部屋着に着替え、露天風呂もある豊かな温泉に浸かり、気分もリフレッシュ。同室の渋川さんから地元のお話を伺う。

夕食兼懇親会が喜田代表のご挨拶で始まる。食前酒で乾杯、様々な料理が目の前に広がる。傾合いを見て、自己紹介が始まる。アルコールも入って皆さん個性ある挨拶が続いた。傾合いを見て現地の渋川さんのご挨拶と、ご当地「一生青春」ラベルの大吟醸が提供され、皆さん感激。



居合道 8 段でもある渋川さんは女性陣に大モテ。写真希望が続々。ご馳走に大満足したところで、部屋に戻り、2 次会は男性部屋の大きい場所で開催。渋川さんから、震災時の話や、ボランティア活動のお話があり、続いて T V 画面に渋川さんの居合道の D V D を映し、渋川さんの説明付きでその雄姿を拝見。質問等があったりして楽しい時間を過ごす。お開きになり、各自部屋に戻る。また温泉に行く人、歓談する人、さまざまな夜が更ける。



第 2 日目【4月 18(月) 旅館⇒ 磐梯吾妻スカイライン⇒浄土平⇒福島駅⇒東京駅】 14,311 歩

川の音、風の音で目を覚ます。この旅館は摺上川沿いに建てられている。窓から見ると、風は強いが天気は良さそう。朝食前にもう一度温泉へ。朝食は、昨晚の宴会場とは別の場所。食事の後、出発までの時間、土産を買ったり、周囲の写真を撮ったりする。出発時に全員で記念写真。

ここからお目当ての「花見山」までそれほど時間はかからない。バスの駐車場で、後から来た板倉さんと合流。歩いて「花見山」に向かう。私は、数年前にバスツアーで来たことはあったが、「三春の滝桜」に行く関係で十分な時間がなかった。

「花見山」は阿部さんという花木農家の方が、親子孫3代にわたって、様々な花木を植え、手入れをしてこられた山。阿部さんは5ヘクタールの



山を無料開放して年間 20 万人を超える人々を快く迎える。桜や花桃の美しい4月には訪れる多くの人々のために地元のボランティアが、案内をする。渋川さんもそのお一人で、阿部さんご一家の変わらぬ温かい気持ちに感動してガイドのお手伝いを始めて今年で 9 回目の春。

山案内人お二人の案内で 2 グループに分かれ、周囲に広がる花々を愛でながら、山道を登る。入



り口においてある杖をついて歩く人、途中でリタイアする人もあったが、最高地点にたどり着き、残雪の残る山々を背景に記念写真。桜の満開の時期は過ぎていたが、歩く度に両側に次々に遅咲きの桜(鬱金(うこん)桜や天の川)、山紅葉などが咲いていて、眼を楽しませてくれる。まさに花見山。十分堪能した後、出発点にもどり、全員揃って記念撮影。

バスを走らせ、昼食場所の「岩代屋敷大王」。そばで天ぷら付き、ゴマをお好みで擦って掛ける。ビールに合う。土産物屋が、試食を勧めてくれて、ついつい土産を買ってしまう。出発時刻ギリギリまで買い物に勤しむ人も何人か。

ここから、「磐梯吾妻スカイライン」経由で福島駅を目指す。移り変わる車窓からの景色を眺めながら、中間地点標高 1,580m の「浄土平」に到着。ところどころ雪が残っている。ここで散策と休憩タイム。バスを降りると風が強く、冷たい。小高い丘があるので、数人が登り始めたが、強風で断念。私は引き返す時、強風に煽られて転倒したほど。

説明書によると、一切経山、吾妻小富士、樋沼に囲まれたこの一帯は、



一切経山の火山噴火で出来た火山荒原。この荒涼とした風景がまたいい。私は、レストハウスはそこそこに、近くにある「ビジターセンター」で、この周辺の自然環境を学んだ。浄土平から車窓から高く積もった雪の壁にびっくりして、スカイラインを下って福島駅に。

ここで、東京に帰る一行と別れて、「元気に百歳クラブ」季刊紙「クラブだより」を担当するメンバー私を含め4名が残って渋川さんにインタビュー。板倉さんがインタビュアーで2時間を超えた。

昭和19年3月生。福島県福島市在住。JA 職員36年。定年後自宅で整体院開業。全日本剣道連盟居合道教士八段。日本詩吟学院福島岳風会八段。ボランティアで福島花見山案内人との経歴。

私より1学年下のほぼ同世代。地元で密着したご活躍に感嘆。

聞けば、奥様との旅行から帰ってすぐ、我々「サロン日だまり」一行を迎え、最後はインタビューと本当にお世話になりました。



渋川 奨(すすむ)さん

最後までご覧いただきありがとうございました。

次号は、「春から梅雨入りまで」と題して、旅以外の日常をお届けします。

それではまた

6月12日

井上 清彦